

臼杵市 施策評価シート

(令和5年度)

評価 担当課	課名
部落差別解消推進・人権啓発課	

コード	VII-21-53	施策名	虐待(DV・子ども・高齢者・障がい者)予防・対策
まちづくりの 目標	豊かな自然環境で市民が潤い、活力あふれるまち(生活環境)	施策の方針	安心安全な暮らしを守り支える
5年後の めざす姿	市民一人ひとりが虐待について正しく理解し、虐待が疑われる場合には警察や児童相談所などの関係機関へ速やかに相談するなどの行動がとれるように、認識対応の啓発活動を行います。各関係機関が連携・協力しながら相談体制の構築を行うとともに、虐待の相談に適切に対応できる人材育成の強化をめざします。		
施策の課題	新型コロナウイルス感染症の取り扱いが、「5類」に引き下げられ、様々な社会活動も回復の兆しが出ていますが、長期の新型コロナウイルス感染症下の生活で、経済の低迷や物価の高騰により家庭内のDVや虐待件数の増加が心配されます。潜在化するDV・虐待被害者を顕在化するため、今後も感染対策に留意しながら、市民へ虐待に対する正しい認識や相談窓口の周知が進むように啓発を強化していく必要があります。		

< 施策の進捗を測るものさし(指標) ~ 第2次臼杵市総合計画 後期基本計画 >

新規 指標	指標名	指標の説明	指標数値の推移						
			単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	虐待に関するセミナー等の開催回数(年間)	虐待(DV、子ども、高齢者、障がい者)の予防や対策に関するセミナーなどを実施した回数	目標	回	4	4	4	4	4
			実績	10	3	1	3	8	
			達成率	%	75.0%	25.0%	75.0%	200.0%	
	配偶者DVの相談件数(年間)	配偶者DVの年間相談件数	目標	件	10	10	10	10	10
			実績	13	13	10	8	6	
			達成率	%	130.0%	100.0%	80.0%	60.0%	
	子どもの虐待の相談件数(年間)	児童虐待が疑われる場合などの相談及び通告並びに継続対応中の件数	目標	件	60	60	60	60	60
			実績	43	44	43	42	59	
			達成率	%	73.3%	71.7%	70.0%	98.3%	
	高齢者虐待の相談件数(年間)	高齢者虐待の相談件数	目標	件	10	10	10	10	10
			実績	7	16	19	14	16	
			達成率	%	160.0%	190.0%	140.0%	160.0%	
	障がい者虐待の相談件数(年間)	障がい者虐待の相談件数	目標	件	10	10	10	10	10
			実績	0	1	0	1	1	
			達成率	%	10.0%	0%	10.0%	10.0%	
			目標						
			実績						
			達成率	%					
			目標						
			実績						
			達成率	%					
指標の 進捗状況	やや遅延	指標の分析	虐待に関するセミナーは、回で目標を下回りました。新型コロナウイルスが5類の扱いとなり、色々な制限が解消された影響か、DVの相談件数は昨年より減少しています。児童虐待や高齢者虐待の相談件数は目標を上回っていますが、障がい者虐待の相談件数は低位で推移しています。						
		指標達成に向け今後の流れ	様々な手段で、市民への虐待防止や虐待に対する理解が進むように啓発を行う必要があります。また、必要に応じて被害者が相談を行えるように、相談窓口の周知を行います。関係機関と連携を深め、相談体制の充実をすることで、相談者に対するスムーズな支援を行います。						

< 市民意識調査結果 R6実施結果 >

領域名	必要度	満足度	満足度
強化領域	2.66	2.00	2.01
向上領域: 今後も現状のサービス水準の維持向上が望まれる領域 強化領域: 満足度を高めるよう事業の強化が望まれる領域 見直し領域: サービス水準が適正となっているか、見直しが必要な領域 検討領域: 施策や事業のあり方や内容の検討が必要な領域		浸透度	82.45%
過去の 調査結果 (領域)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	強化領域	強化領域	強化領域

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課	事業費(単位:千円) ※人件費含まない		評価シート作成の有無	課長評価			重点事項
			R4年度実績	R5年度実績		進捗状況	今後の方針	施策への貢献度	
1	乳幼児等訪問事業	子ども子育て課	191	120	無	-	-	-	
2	DVセミナー実施事業	部落差別解消推進・人権啓発課	3	3	無	-	-	-	
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
合計			194	123	※事務事業評価シートは対象となる要件を満たした事業のみ作成しています。				

<次年度以降の課題>

DVの被害者などは、自分がDVを受けているという認識が乏しかったり、自分が原因だと考える場合が多く、適切な相談機関につながりにくい状況があります。また、児童虐待とDVが同一の家庭内で起こる場合もあります。そのため、地域で虐待やDVを早期に発見できるように、市民に対して啓発・研修を進める必要があります。また、被害者が相談機関につながるように相談窓口の周知を進める必要があります。

施策の評価 (今後の施策の方向性)

- 評価の選択肢 ○ 向上 .. 現状の通り維持向上する ○ 強化.. 現状より強化を図る
 ○ 見直し .. 現状を見直し適正化を図る ○ 検討.. 現状の抜本的な検討を行う

<担当課評価> ...評価者 担当所属長

担当課評価	評価の理由と次年度以降の取組
向上	庁内の関係課で連携し、必要に応じて外部の専門機関などとも協力しながら、相談者の対応にあたります。また、各種研修や講演会、啓発活動などを通じて、市民のDVや虐待防止のただし理解を進めます。庁内関係課の担当職員が、支援措置を理解するための研修に参加することで資質の向上に努めます。